

肥薩線と沿線地域の魅力向上・検討事業

ひさつせんあげいん
【団体名】肥薩線again

地域の現状・課題（取組みの背景）

- 令和6年当時は、令和2年7月豪雨災害から4年が経過しようとしていたものの、地域住民の足であった肥薩線の復旧の方針が決まっていませんでした。
- JR九州が求めていた沿線住民の肥薩線に対するマイレール意識の醸成による日常利用を創出するためには、肥薩線の利用促進、球磨川流域の魅力向上・地域の活性化策を地域内外で検討、実施する必要がありました。
- そこで、肥薩線復旧のため、住民目線で肥薩線の利用促進、球磨川流域の魅力向上・地域の活性化を地域内外の方を含めて考える機会を創出する事業に取り組みました。

取組みの概要

- ◆「肥薩線ヒストリー写真展」の開催
 - ・魅力発信のため、「SL人吉」を中心とした写真や1/1サイズ等の段ボール機関車を展示する写真展を沿線のショッピングモール等で開催しました。
- ◆シンポジウムの実施
 - ・他の鉄道沿線地域の事例を参考に鉄道を活用したまちづくりについて考えるシンポジウムを開催しました。
- ◆「肥薩線・くま川鉄道ツアー」の実施
 - ・主に人吉・球磨地域の肥薩線等の関連施設を中心とするツアーを実施しました。



肥薩線ヒストリー写真展

取組みの成果・現在の取組み状況

- どの取組みも多くの方に参加いただきました。特に写真展の参加者からは「SL人吉」の引退を惜しむ声が多く聞かれ、また、シンポジウムには県内のみならず、宮崎、鹿児島県からも約150人が参加し、地域内外の方の復旧に向けた機運を高めることができました。
- 現在は、肥薩線が復旧する令和15年頃に向け、鉄道の持続可能性や駅が持つ拠点性等を最大限に高める目的で、駅単位での住民目線の勉強会や肥薩線の未来を担う子どもたちに魅力を伝える絵本を制作し、沿線自治体の保育園等に配布する取組みを実施しています。（くまもと未来づくりスタートアップ事業を活用）
- 今後も、駅単位の勉強会を他の駅でも実施予定で、この活動が継続して実施されることにより、沿線住民が肥薩線を活用したまちづくりに主体的に関わる意識の醸成が期待されます。



肥薩線・くま川鉄道ツアーの様子



この表紙は 令和4年度（2022年度）くまもと未来づくりスタートアップ補助金を受けて制作されています

今年度制作した絵本の表紙